

はつらつ通信

—— 患者さまとご家族に安心と信頼をお届けするマガジン ——

びょういんあーとぶろじえくと

これまで+これから

アートと病院のご縁は、当時の院長との出会いから

美術家の日野間尋子さんが代表を務める「びょういんあーとぶろじえくと」。始まりは、2008年10月に13日間だけ開催された単発の絵画展でした。

当時、大規模改修工事を終えたばかりの当院では、札幌交響楽団メンバーによるミニコンサートや専門家による園芸療法などの新しい試みを行っていました。「札幌ライラック病院で展覧会をしてみても？」と日野間さんに持ちかけたのは当時の院長。院長とは海外でアート展を経験した日野間さんが、帰国後に当時知り合いだった病院関係者の紹介で出会いました。

コロナを乗り越え継続し、活動は19年目に

このご縁をきっかけに、障害者支援施設や児童養護施設で制作を共にすることで日野間さんが抱いた「この方々の作品を他の誰かにも見てもらいたい」という思いは、一気に実現へ向け動き出し、自身の絵と一緒に展示するという願いが当院ロビーで叶いました。

作品展終了後、作品群が搬出されたロビーは灯が消えたかのように寂しくなり、翌年夏の開催が決定。第2回からは「びょういんあーとぶろじえくと」の名称が付き、以降毎年定番の事業となりました。コロナ禍でも継続し、今秋で19年目を迎えます。

今号では「びょういんあーとぶろじえくと」のこれまでとこれからを、日野間さんと当院の担当・鍋谷健彦課長が語り合います。



左から鍋谷課長、日野間代表



2026.9.1 September vol.183

発行：医療法人北志会 札幌ライラック病院
編集：『はつらつ通信』編集委員会

「いつもの場所の 写真館(夏編)」開催中



写真家として 新しいメンバーに



当院居宅介護支援事業所の今野博史所長がメンバーに参加することになった「びょういんあーとぷろじまぐと」。

現在展示されているのは、四季を通じた今野所長の組み写真で、昨年12月に市民ギャラリーで行われた写真展「北海道「青」の記憶」の出品作をはじめとする大自然の情景。清涼な空気を感じさせる作品が並びます。

ここを結ぶ通信箱「コトバコ」もリニューアルで2代目が登場。皆さまからのメッセージをお待ちしています。



2代目の新「コトバコ」

編集後記

動物園や水族館は年に何度も通うほど好きで、年間パスポートを毎年更新しながら季節に応じた動物たちの変化を楽しんでいます。今野さんの写真展示にもたくさんの動物たちが登場しますので、ぜひご覧ください!写真展示に感化され他の芸術にも触れてみたくなり、美術館へ初めて行ってきました。好きなキャラクターの展示だったので2回行きました。ピカピカ素材で作られた工芸品を見たり、作家さんのメッセージを見たり、楽しい時間を過ごせました。まだまだ自分に合うアート、模索チュウ。(佐々木)

甲府市内の高校に通う(寮生活している)長女から今年7月末、ラインが届いた。「こっちはちょー暑くてやばいよヘルプ!そっちはどう?」。そっちはどう?って「こっちはそっちよりも10℃涼しい30℃」とヘルプと一緒に返信。既読はついたものの、長女からの返信は今日まで一切ない。そっちの連日のうだるような酷暑で返信する力を失ったか?それはない。冷房完備の校舎と寮だから。もしかしら、私の返信文に気分を害したか?それは考え過ぎというもの。高2の長女が私の返信文をまともに読むとは思えない。じゃあ、いつものあれしかない。ヘルプという名のカツアゲ(PayPay入金)の達成。いやはや。(鍋谷)



医療法人 北志会

札幌ライラック病院

〒062-0906 札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号

☎011-812-8822 URL <http://www.lilac.or.jp>

診療時間 【平日】 9:00~12:30 13:30~17:00 【土曜】 9:00~12:00



『はつらつ通信』に対するご意見・ご希望は、電話または当院ウェブサイトのフォームにてお寄せください。